

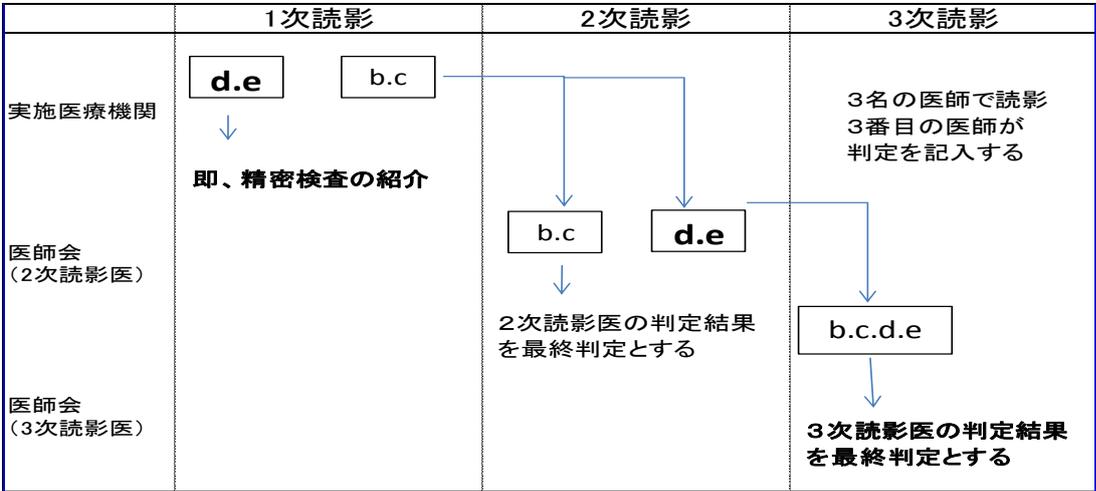
吹田市肺がん検診の読影体制及び総合判定について

1 読影体制に関する記載内容

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針
 胸部エックス線写真については、2名以上の医師（このうち1名は十分な経験を有すること）が読影する。
仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目
 読影の際は、2名以上の医師によって読影し、うち一人は肺がん診療に携わる医師もしくは放射線科の医師を含める。

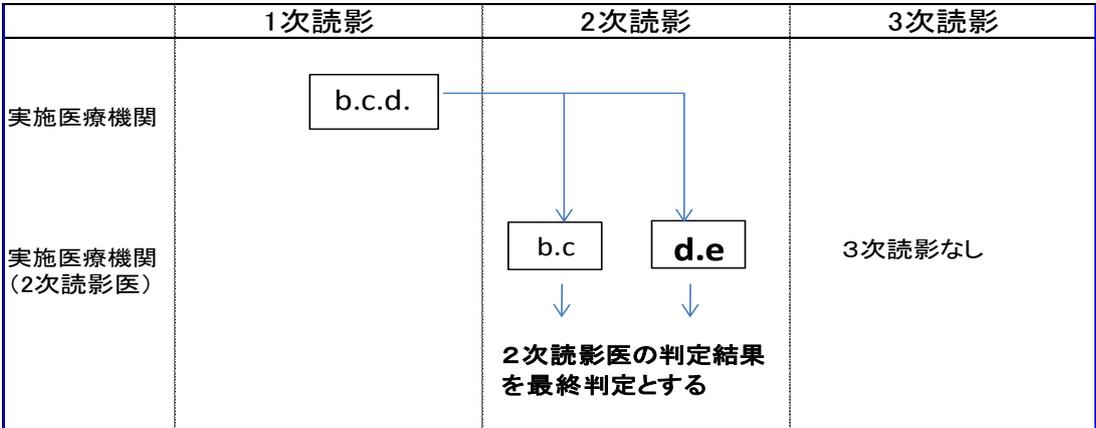
2 現在の判定の流れについて

(1) 自院完結以外の医療機関



1次読影医が要精検（d.e）と判断した場合は、即精密検査を紹介するため、2次読影以降は実施せず。2次読影で要精検と判断した場合は、3次読影を実施している。

(2) 自院完結の医療機関（市立吹田市民病院・済生会千里病院・済生会吹田病院）



1次判定結果に関わらず、全数2次読影を実施し、2次読影医が最終判定を行っている。

2 精度管理指標のフィードバックについて

吹田市立保健センターでは来年度より、システムの改修に伴い、実施医療機関別の検診実績に基づいて、プロセス指標を作成することが可能となる。今後は、各医療機関に精度管理指標（要精検率、精密検査受診率、肺がん発見率、陽性反応適中度）をフィードバックしていくことも検討している。要精検率などが検診実施医療機関でばらつきを認める場合は、背景の情報（受診履歴、年齢）を含めて結果を精度管理委員会で共有し、課題や対応方法について協議検討し、医師会と連携しながら、検診の質の確保を図っていきたいと考える。

2次読影医が要精密検査と判定した症例については、現在精密検査の結果についてフィードバックしていく方法を予定している。今後は、上記検診実施医療機関と同様に、精度管理指標についてフィードバックする内容についても検討していく。

3 検討事項

- (1) 指針内容に基づき、判定内容に関わらず胸部X線写真について全数2次読影を実施していただくことは可能か。万が一判定が変更となった際はどのように対応すべきか。
- (2) 要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度等のプロセス指標値を各検診実施医療機関や2次読影医へのどのようにフィードバックしていくか。